



一般社団法人 **日本LD学会**  
Japan Academy of Learning Disabilities

# 会 報 第127号

一般社団法人 日本LD学会 事務局（業務委託先）

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター（株）国際文献社

URL <https://www.jald.or.jp>

- ・巻頭言：学習支援における生成AIの活用可能性
- ・第32回大会（広島）開催報告
- ・第32回大会（広島）印象記
- ・〈研究集会特集〉第7回研究集会（東京）事前講義
- ・〈連続講座1〉第6回 家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクト
- ・〈連続講座2〉第6回 GIGA スクール時代における特別支援教育
- ・委員会リレー企画 研究委員会の取り組みについて
- ・PATIO～実践の最前線～
- ・事務局からのお知らせ



## 学習支援における生成AIの活用可能性

横浜国立大学

後 藤 隆 章

学習者が最大限に学ぶ機会と潜在能力を發揮できるようにするために、我々は学習支援の手法を常に向上させなければなりません。その際、新たなテクノロジーが大いに貢献できる可能性を秘めており、生成AIもその一つです。生成AIは学習支援においても以下の方法での活用が期待できます。

まず、カスタマイズされた教育資源の提供を可能にします。生成AIは各学習者のニーズに合わせてカスタマイズされた学習コンテンツを生成でき、学習者に対応した教育資源を提供することができます。

さらに、生成AIは学習者の進捗状況を追跡し、問題の早期識別を支援します。オンタイムでの進捗状況に関する情報をもとに、早期介入プログラムを構築し、問題を克服するための適切な支援の提供が可能となります。

また、アクセシビリティの向上も生成AIの利点の一つです。視覚的な支援を必要とする学習者には音声合成、聴覚的な支援を必要とする学習者にはテキスト化された情報を提供するなど、生成

AIは学習教材を異なるフォーマットに変換することでアクセシビリティを向上させます。

一方、生成AIを活用するにはいくつかの課題をクリアする必要があります。まず、学習者のデータを安全に管理し、プライバシーの保護に十分に配慮する必要があります。また、どのように生成AIが結論に至ったのかその経緯がわかるようにアルゴリズムの透明性が求められます。

これらの課題を解決して生成AIを効果的に活用するためには、支援者に対する適切なトレーニングと啓発が必要です。生成AIの活用は、学習支援の分野に新たな可能性をもたらすものであり、私たちの使命を達成するための強力なツールとなり得ますが、その活用には慎重な計画と倫理的な配慮が必要です。

以上の文は、生成AI（Chat GPT）を活用しながら作成をしました。私たちは、どのように生成AIと向き合い、学習支援のツールとして活用していくか、じっくりと準備しておくことが必要です。